

■ 施工手順

1. 下地状態の確認

- ① 下地の乾燥状態を高周波水分計 (HI-520-2) など必ず確認する。(D.MODE 選択)
 →測定値が440未満の場合は、標準施工を行う。
 →測定値が440～620未満の場合は、耐湿施工を行う。
 →測定値が620以上の場合は、施工を延期し、下地を乾燥させる。
 ※下地の乾燥状態の確認は、乾燥の進み難い場所で行ってください。
 ※トーチランプやガスバーナーであぶり下地が黒っぽく変色しない場合が標準施工の目安です。

- ② 下地表面が弱い場合や粉っぽい場合は「フロアシーアップ」を塗布・乾燥させる。下地内部まで弱い場合は、床材施工を避けるか、下地を強固に作りかえる。

2. 清掃

- ① モルタル、コンクリートの突起物をスクレイパー等で削る。
 ② 湿潤ノコ屑を撒き散らし、箒で掃き取ってモルタルかすなどを取り除く。

3. パテ

- ① 「アースシール速硬」等で下地の亀裂、凹部などを埋め、下地を平滑にし、完全に硬化・乾燥させる。
 ② 下地にコテムラなど全体的に不陸がある場合は、「アースコート60」で下地全面を平滑にし、完全に硬化・乾燥させる。

4. 床材の張り付け

- ① 床材、施工環境、使用状況などを加味して適合する接着剤を選定する。
 ② 接着剤を下地に塗布し、所定のオープンタイムをとる。
 ③ 床材を張り付け、圧着可能時間内にローラー等を掛け、床材と接着剤を十分に馴染ませる。
 ④ 床材張り付け後、24時間程度は極力人通りを避けると共に、1週間程度は直射日光や急激な空調の使用などを避け、換気をよくして養生する。

※備考

- (1) 床材及び接着剤は、極力前日までに搬入し、施工環境に慣らしておいてください。
 (2) ビニル床シートなどを施工する場合は、施工に先立ち、巻癖、伸縮を取り除くため、仮敷きを行ってください。タイル系の床材は、反りなどが生じないよう、平滑な場所で保管してください。
 (3) 冬季低温時 (5℃以下) の施工は、ジェットヒーターで採暖を取るなどして施工を行ってください。
 (4) 乾燥モルタル下地などと比べ吸い込みが少ないため、接着剤塗布後のオープンタイムや養生期間は、長めにとるようにしてください。
 (5) 施工後、急激な温度変化が生じると、床材が伸縮し、目透きや突き上がり、反りが発生し易いのでご注意ください。
 (6) 床材張り付け後、床材に適した継ぎ目処理などを行ってください。

■ 使用商品 (施工㎡数)

●フロアシーアップ



商品番号	荷姿	施工㎡数の目安
291-112	4kg(×4)	80㎡/4kg (2倍希釈)
F☆☆☆☆		

●アースシール速硬



商品番号	荷姿	施工㎡数の目安
293-101	5kg(×4)	5㎡/5kg (1mm厚)

●アースコート60



商品番号	荷姿	施工㎡数の目安
293-801	4.5kg(×4)	5㎡/4.5kg (1mm厚)



水分計



突起物等を削る



パテ処理



接着剤塗布



ローラー掛け

■ 注意事項

- ① 新規施工の場合は勿論、改装の場合であっても、下地内部に水分が残っている場合がありますので、事前に水分のチェックを行ってください。
 ② 通常コンクリート面より吸水性が少ないので、十分なオープンタイムを取ってください。
 ③ 溶剤系製品を使用する際は、火気・換気に十分注意してください。
 ④ 床材の種類によっては、接着しにくいものもありますので、事前に試験施工して確認された上で本施工を行ってください。
 ⑤ 床用パテ「アースシールシリーズ」は、下地を平滑にすることを目的としており、下地の動きを固定するものではありません。従って極端に動きが生じた場合クラック等が発生する事がありますので、ご注意ください。
 ⑥ 使用に際しては、各製品の使用方法、注意事項などを必ずお読みいただき、十分にご理解頂いた上でご使用ください。尚、製品の取り扱いに関する詳細が必要な場合は、安全データシート (SDS) をご参照ください。